

| | | | |
|------|------------------------|----|-------|
| タイトル | ・台湾女性のキャリア形成、日本と韓国との比較 | | |
| 所属 | ・南山大学人文学部人類文化学科 | 氏名 | ・舘茉理絵 |

卒業論文は、台湾は女性の進学率が高まっている反面、少子化が進んでいることに興味を持ち、「台湾女性のキャリア形成、日本と韓国との比較」というテーマにした。同じアジア圏で少子化の問題を抱える他国（日本・韓国）と比較することで、ジェンダー問題と少子化の関係を考えたい。

今回は三カ国の夫婦の学歴と妻の就業状況と女性の生活満足度について比較する。アジアにおいて大学などの高等教育機関で教育を受ける女性は増えており、台湾にいたっては1995年から女性の就学率が男性の就学率を上回っている。このような状況から、日本では共働き世帯数が専業主婦世代数を上回っており、韓国や台湾でもみられる可能性は高い。夫婦の学歴の分布について、日本では学歴が同じ者同士で結婚する傾向があり(49.6%)、韓国や台湾では少ないが割合は最も高い。そして、日本と韓国では妻の学歴の方が夫の学歴より低い場合、妻の就業割合が最も低い。対して台湾では、夫婦の学歴に差がある方が妻の就職割合が高くなっている。日本や韓国と異なり台湾は学歴に関係なく妻が就業している様子があり、性別役割分業と異なる動機がある可能性がある。また、日本と韓国は性別役割分業意識が根付いている可能性がある。対して、韓国では、男性より女性の高学歴化が進展している。[萩原 2018:41-43]



台北（2019年,撮影）

そして、日本と韓国では、女性は正規就業よりも無業の生活満足度が高い。これは専業主婦を望む女性が多いことを示し、専業主婦思想が日本や韓国では強く残っていると考えられる。また、台湾は就業状況による生活満足度の優位な差がみられなかった。[萩原 2018:72-73]

これらのことから、どの国も学歴が同じもの同士で結婚する傾向が高いことから、同じ大学や職場で出会った人と結婚する人が多いのかもしれないと考えた。また、日本と韓国の性別役割分業意識から、儒教の影響の大きさを感ずるとともに、台湾の宗教（道教が最も多い）では性別による役割があるのか調べていきたいと考えた。そして、日本と韓国の専業主婦志向から、女性は稼げないイメージがある、または実際に稼げない、育児と両立が難しい等で専業主婦思考が強い可能性もあるのではないかと考える。



台北（2019年,撮影）

【参考文献】萩原里紗 2018 『女性の就業、結婚、出産に関する行動、価値観の国際比較-日本、韓国、台湾のパネルデータを用いた実証分析』公益財団法人三菱経済研究所

